

桃の生命感と

いいますか

実在感と

いいますか

それを捉えたい

と考えるのです



アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS No. 139
Winter 2019

◆石本正記念展示室 ◆ 2018年度
「石本正作品選4」より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

初公開
「野辺に（少女）」 大下絵



「野辺に（少女）大下絵」1948（昭和23）年
展示の様子

直接描く方法をとつてみました。

ただしそんな彼も、三十代の初め頃までは、伝統的な手法に則り最初に大下絵を描いて制作をしていました。今回が初公開となるこの「野辺に（少女）大下絵」は、その時代の数少ない大下絵の一つです。

自の表現を求めて
大きく転換していく
く画家・石本正の
画業の出発点として
てとても重要なな
品群であると言え
ます。



「舞妓立像」2008（平成20）年加筆

描くようになつていきました。本作は、そのような石本の制作工程がよく分かる作品です。

四十代頃に描き始めて未完成のままアトリエに何十年も置いてあつたのを、八十代になつてから見つけ、少し加筆をしたのちに石正美術館に収蔵されたものです。顔料で下塗りをした画面に直接描かれた力強く勢いのある複数の太い線は、まるで心の中に存在する舞妓像を画面上で探し出しているかのようです。石本芸術を象徴する華麗な舞妓像が仕上がりついでまでの、画家の直観的な最初の仕事の様子が見えてきます。

四十代頃に描き始めて未完成のままアトリエに何十年も置いてあつたのを、八十代になつてから見つけ、少し加筆をしたのちに石正美術館に収蔵されたものです。顔料で下塗りをした画面に直接描かれた力強く勢いのある複数の太い線は、まるで心の中に存在する舞妓像を画面上で探し出しているかのようです。石本芸術を象徴する華麗な舞妓像が仕上がりついでまでの、画家の直観的な最初の仕事の様子が見えてきます。

石本正の下描き

伝統的な日本画の描き方のこと」として、多くの日本画家が本画を描く前に『大下絵』と呼ばれるものを作ります。『大下絵』というのは、本画と同じサイズの別の紙に描く下書きのことで、構図や微妙な形の修正などをこの段階で行います。そして納得のいく大下絵が完成したら本紙にそのまま転写して制作します。

しかし、石本正はその生涯のほとんどどの作品を『大下絵』を作らずに描いていました。それは、この大下絵を制作し転写する方法では「ただの塗り絵になってしまって本来の感動を表現することが出来ない」と考えたためでした。そのため、主に木炭やコント等をつかって、本紙に



「野辺に（少女） 大下絵」（部分）

絵もこれまで所在不明で、どんな作品なのかさえ明らかになつていませんでした。それが、亡くなられた後、アトリエの片隅に本作が筒状に丸められた状態で置いてあるのが発見され、調査の結果これが「野辺に」の大下絵であることが判明しました。

若き画家が最初に作品発表の場として選んだ日展に出品した三点の作品はどれも堅実な表現で描かれており、その後独立して活動するに至りました。

若き画家が最初に作品発表の場として選んだ日展に出品した三点の作品はどれも堅実な表現で描かれており、その後独立

次に「舞妓立像」をご紹介します。

◆企画展示室◆「石本正 心の眼 2 「私を感動させた日本画」」

石本が素晴らしい絵だと心から感動して選び、石正美術館に収蔵された約百五十点の現代日本画家の作品の中から、厳選した十五点をご紹介しています。

二〇〇一年に、自らの作品を収蔵・展示する石正美術館ができたことをきっかけに、石本正は『文化』は流行ではなく心や気持ちが一番大事だということを、ふるさとである島根県浜田市から発信して欲しいと願い続けていました。そして、百五十点余りの他作家の作品を自らの心の眼で選び、それらを浜田市が購入して二〇一〇年に増設された新館に収蔵されました。以降当館は、石本の作品だけではなく、彼にゆかりの深い現代日本画家の作品も併せて鑑賞する事ができるようになりました。石本は、このことについて次のような言葉を残しています。

「絵を見るときは、名前や肩書きで見ないで欲しい。先入観を持たず、作品に素直な心で向き合ってほしい」石本正
どの作品も、感動にあふれた素晴らしい絵画を多くの人に見てもらいたいと、石本が心から願っていたものばかりです。ぜひ会場で、それぞれの作品をゆっくりとご覧頂きたいと願っています

ずっと記憶に残り続けた絵

石本の作品の選び方は、とても独特でした。彼が認めた画家の作品ならばどれでも良いというのではなく、感動した絵を見たのがたとえ何年も前であつてもはつきりと覚えてて、あの作家のこの作品がほしい。と作品を指定して選びました。

最初にご紹介する八田哲の作品「イス



八田哲「イスラムの街」1984(昭和59)年

ラムの街」は、当館に収蔵された年から二十年以上も前の一九八四年に制作され、その年の第十六回日展で特選を受賞した作品でした。別の日本画の団体である創画会をけん引する会員の一人であつた石本正でしたが、その会派の垣根を超えて、自分が本当に素晴らしいと感動した作品を二十年以上も覚えていて、本物の感動を与える作品のひとつとして石正美術館に収蔵することを選んだのでした。

この作品は、発表後ずっと作家が倉庫で保管しており、湿気の多い環境の中で二十年以上も経過していたためかなり傷んでしまっていました。それでも、この作品を求めていたためかなり傷んでしまっていました。それでも、この作品を修復していまここにあります。

石本正は、作家の年齢でその絵について判断することもありません。次にご紹介する作品「斜陽」を描いた画家・西久松綾氏は、当館の収蔵作家の中で最も若い画家です。

いまから約五年前のある日、当時まだ京都造形大学の大学院に在籍していた彼は、ゼミの先生の引率で石本のアトリエに訪れる機会があつたそうです。この時、アトリエにならんでいた多数の描きかけの作品や写生を見ながら画家の話を聞いている中で、「何の木か分からぬいけど、紅葉が美しくて描いている途中なんだよ」という一点の作品に石本が手をとめました。見ると、西久松自身が描いたことがある樹だったため、ちょうど持参していたこの「斜陽」の作品写真を見せながら、石本が描いていたその樹が「楓の樹」であることを伝えました。

その日の夜に、石正美術館にこの作品の収蔵を石本が望んでいるという連絡があり、卒倒しそうになつたといいます。

この作品は、制作した当時二十三歳だった彼は深い悲しみの中にあって、初めてひとりの大切な人のために描こうと向き合つたという、自身にとつても大切な作品でした。彼は次のように語っています。

想いが伝わる絵

この作品は、画家自身がイスラムの国々を旅した中で目にした、トルコのアンカラの街を描いた作品です。



「先生からこの作品を望んでいただいた時、もしかすると、誰かの為にしなければ、他の誰にも伝わらないのかもしれない。そんな風に感じました。絵画表現を通じて人として成長していくことが先生への恩返しと思つております。」

◆「石本正作品選Ⅳ」(石本正記念展示室)

(企画展示室)【出品作家】池庄司津・池田知嘉子・石原正人・岩本和夫・内海福溥・加藤美代三・岸本裕子・坂内圭・中原麻貴・西久松綾・西野陽一・八田哲・船越修・牧野良美・松倉茂比古(五十音順)

【会期】三月十七日(日)まで

イタリアの旅⑤ —時代の移り変わり—



《ブランカッヂ礼拝堂》内部の様子

集 我がイタリア」一九九一（平成三年より

「キリスト教の礼拝堂は私達にとっても貴重な美術の宝庫の場だが、言うまでもなくイタリア人にとっては第一に生活と密着した祈りの場なのである。

もう二十年位前の話であるがマサッチオのフレスコ画で有名なフィレンツェのサンタ・マリア・デル・カルミネ教会のブランカッヂ礼拝堂など一晩中開いていて、誰もが勝手に入れた記憶がある。夜中でも自由に祈りをささげる事ができたのである。神の場である礼拝堂が何者かに荒らされたり、傷つけられたりすることなどありえないかたに違いない。最近の殺伐とした風潮は残念なことに、こうした信仰厚いイタリア人の心にも働きかけてしまつたようでもう以前のよう一晩中マサッヂオのフレスコ画と対話することもかななくなってしまった。」石本正「画文

私の初めてのイタリアの旅では、先生が見てまわられた数多くの場所のうちのほんのごく一部に足を運んだだけでしたが、イタリアの街や美術館、教会を巡り歩いている中で少し感じる事がありました。それは、古い建物で構成された町並みなどはきっと何百年も前からも大きく変わっていない風情を感じができるのだろうけれど、やはりそこに住む人々訪れる旅人は現代の人間なのだということでした。これはまたたく当たり前のことなのですが、いま先生の言葉を読み返しても改めて思つてしまします。

冒頭でご紹介した先生の文章の中にある、《サンタ・マリア・デル・カルミネ教会のブランカッヂ礼拝堂》に足を運んだ時の事でした。この日は午後からウフィツィ美術館に行く予定で、早朝にローマを出発して特急でフィレンツエに移動。到着してから少し時間が経ったため、できたら行きたいと思つていたブランカッヂ礼拝堂に行つてみることにしました。ここには、マソリーノ（一三八三・一四四〇頃）とマサッヂオ（一四〇一・一四二八）が共作し、

は二七歳という若さで夭折しましたが、絵画に消失点の概念をとり入れた最初の画家として《ルネサンス美術の先駆者》と言われています。そんな画家たちが描いたこの礼拝堂のフレスコ画を、その後のルネッサンス時代の巨匠と呼ばれた人達、フィレンツエの全ての画家達がここに来て、研究、学びにきたのだそうです。

駆から三十分くらい歩いてようやく教会の前にたどり着くと、公開時間が決まっているとかですぐに入ることが出来ませんでした。次に入ることのできる時間を確認し、入館予約をしてあつたウフィツィ美術館へ移動。ウフィツィ美術館で観たかった作品を鑑賞した後、再び礼拝堂へ急ぎました。到着してウキウキしながら中に入ろうとする入り口に立つていた警備のお姉さんに「予約している人しか入れません」と止められてしまいました。もうこの時点で夕方で、一日歩き回つてへとへとでた。その後の旅のスケジュールを確認しても、日を改めて来ることもできぬ状態でした。なんとか入れてもらうことができないか交渉し、最後の客が出てきたら入れてもらえることになりました。

最近は、イタリアの大きな美術館をはじめとする観光施設はどこに行つても長い長い行列ができるので、中には予約していないと入ることすら難しい場所も多いようです。このブランカッヂ礼拝堂もそうだったようなのですが、まさか教会まで予約が必要とは考えていました。

実は、《イタリアの旅②》で紹介した、先生がシエナの街をスケッチしたファサードの屋上へ上がるのも行列に並んで順番に案内され、決まった時間内で見学しなければならず、とても先生のようにスケッチをする時間など与えられない様子でした。おそらく、先生がスケッチされた頃は制限時間などなかつたのでしょう。

ブランカッヂ礼拝堂も、中は予約者のみなので静かに鑑賞することができますが、先生の言葉のなかにあるように「一晩中マサッヂオのフレスコ画と対話する」なんてことはできそうない雰囲気でした。

先生は、《中世ヨーロッパ美術を巡る旅》を六十九歳で最後にされています。九十代のある時、お電話で「イタリアにもう一回行つてみたいけどな。もう一度行かれるんやで」と、とても残念そうにお話しされていたことがあります。私はこのたび初めてイタリアに行つて、素晴らしい感動のほうが確かにありました。帰つて先生の文章を読み返すたびに、もし現在のイタリアに先生がもう一度行かれていたら「昔はもつと自由で大らかで、こんなことはなかつたのにな」と、がつかりしてしまった場所もあつたのかも知れないとも思つています。

また近いうちに、時間が取れたらいタリアへ行つて、先生が見てこられたものを見て来ようと計画しています。この《イタリアの旅》は、またその後に続きを書きたいと思います。

（学芸員 横山由美子）

創作活動、応援します。

石正美術館 ギャラリー

RENTAL GALLERY

平成31年度

大

＼利用者募集中！／

石正美術館ギャラリーは、館内廊下を利用した市民ギャラリーです。



石正美術館では、平成31年度のギャラリー利用者の方を募集しています。どなたでも気軽に鑑賞できるフリースペースで、芸術が好きな方から、コンサートやワークショップなどのイベントにお越しの方など、様々なお客様にご覧いただける開かれた展示空間です。創作活動をされている個人様の展覧会から、アートの教室受講生さんの作品展など幅広くご利用いただけます！

展示経験がおありの方はもちろん、初めての方も大歓迎！美術館でご自分の作品を発表してみませんか？

利用期間（設営・撤収期間を含む）

以下の利用期間内でご希望の日程をご企画ください。（原則、1週間単位で利用可能）

平成31年
(2019年)

4月13日(土)～5月24日(金)

開館時間 9時～17時

7月2日(火)～7月19日(金)

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

8月6日(火)～8月18日(日)

平成32年
(2020年)

1月18日(土)～3月15日(日)

利用料

1日あたり **2,160円**（税込）※展示期間のみ（設営・撤去日は含みません）

ギャラリーの広さ

長さ約30m・幅約3mあります（約90平米）

ご注意

- ギャラリーの観覧は無料です。入場料をとることはできません。
- 美術作品への虫等の被害を防ぐため、生花、生物などの展示はできません。
※出品作品につきまして、事前にご相談ください。
- 作品の展示・撤去作業、搬入・搬出は、美術館の指導のもと、使用者の方が行ってください。
※展示器具（吊りワイヤー・金具など）は貸し出し致します。
- ギャラリー内の出品作品の販売はお断りします。
- お申込み、詳細については石正美術館へお問い合わせ下さい。
- 石正美術館ホームページからも詳細がご覧頂けます。



創作教室

おとなのアートサロン 「マスコットサシェ（匂い袋）」

講師：イラストレーター・KUBORIMさん

3.17 日 参加費 2,000 円 要申込み（3.10まで）
【定員】10名
13時～15時



かわいい動物の形をした「マスコットサシェ（匂い袋）」が簡単に作れる創作教室です。ネコ、フクロウ、ウサギの中から好きな動物を選び、キットになつたパーツを針と糸でぬいあわせて作ります。内側のコットンにふくませるアロマオイルを変えれば、気分によって色々な香りが楽しめます♪

創作教室

つまみ細工でつくる 春の壁掛け

講師：モードエモード静

4.7 日 参加費 1,500 円 申込み可
【定員】各クラス5名
対象年齢 10歳以上

【午前のクラス】
10時～
【午後のクラス】
13時30分～

(所要時間 120分)

花をモチーフにした、ミニサイズの壁掛けを作成する大人向けのワークショップです。針や糸は使わず、つまみ細工という技法で、和の雰囲気のある半立体の作品を作ります。



ギャラリー展示

新田芳道作品展

「梅花展－人生の華－」

1.22 火

→ 2.3 日

9時～17時

（最終日 15時まで） 入場
月曜休館 無料



浜田市三隅町在住の水墨画家・新田芳道さんの、傘寿・日本水墨院展文部科学大臣賞受賞を記念した作品展です。

この季節を代表する花、梅をテーマとして迫力の水墨画を展示します。

ぜひ会場でお楽しみください。

創作教室

おとなのアートサロン

「心いきいき！～満開の桜の大木～」

講師：島根臨床美術の会

2.23 土
13時～15時

2,000 円
参加費 要申込み
【定員】20名



一足早く春を感じる「満開の桜」を描いてみませんか？大木の太い幹を筆で表現したあと、桜の花をスポンジでポンポンと咲かせていきます。屏風仕立てになっているので、お部屋や玄関の飾りにもぴったり。完成したら作品を並べ、お花見をしながらお茶菓子も楽しめます。

コンサート

サックスコンサート それぞれの旅立ち vol.5

3.30 土 入場
無料 【時間】
14時～16時（開場 13時30分）

サックス講師・杉本孝一さん（浜田市）の指導を受ける生徒が、高校や中学を卒業することを記念し、ソロやアンサンブルで曲を披露します。

進学しさらに楽器演奏の高みを目指し、巣立っていく子供たちの演奏をお楽しみください。



SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正 記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
1 2018年度 石本正作品選4	2 私を感動させた日本画 石本正 心の眼2	<p>1.2 水 ↓ 1.20 日 「干支展 -2019亥-」 【入場無料】 最終日 1.20 は 15 時まで</p> <p>1.22 火 ↓ 2.3 日 「新田芳道作品展 梅花展 ー人生の華ー」 【入場無料】 最終日 2.3 は 15 時まで</p> <p>ギャラリー利用について 石正美術館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。グループや個人の作品発表の場として多くの方に利用をいただいています。 詳しくは石正美術館までお問い合わせください。 利用料：1日 2,160 円（税込み） ※利用料金は電気代・什器利用代など含む ※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります</p>	<p>おとなのアートサロン 「心いきいき！ ～満開の桜の大木～」 2.23 土 13時～15時 講師：島根臨床美術の会 参加費：2,000円 定員：20名</p> <p>第 57 回石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」 3.9 土 3.10 日 特別講師：池田知嘉子先生（日本画家） 参加費：7,500円</p> <p>おとなのアートサロン 「マスコットサシェ（匂い袋）」 3.17 日 13時～15時 講師：イラストレーター・KUBORIMさん 参加費：2,000円 定員：10名</p>
2	1.2 水 ↓ 3.17 日	1.2 水 ↓ 3.17 日	
3	3.18 月 → 3.25 月	展示替休館	CLOSED
4 2019年度 石本正作品選1	5 石本正 素描展	<p>3.26 火 ↓ 4.12 金 「石見の桜展」 【入場無料】</p> <p>4.27 土 ↓ 5.6 月 「SLやまぐち号」 写真展（仮） 稲倉 寛（鹿足郡吉賀町） 【入場無料】</p> <p>5.10 金 ↓ 5.24 金 大正→昭和→平成生まれの 「大驛親子三世代美術展」 【入場無料】</p>	<p>3.30 土 14時～16時 サックスコンサート それぞれの旅立ち vol.5</p> <p>4.7 日 【午前のクラス】 10時～ 【午後のクラス】 13時30分～ 「つまみ細工で作る 春の壁掛け」 講師：モードエモード静 参加費：1,500円 定員：各クラス5名 所要時間：120分 対象年齢 10歳以上</p>
5	3.26 火 ↓ 6.23 日	3.26 火 ↓ 6.23 日	



SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌日休館)

展示替え期間

(平成31年3月18日(月)~3月25日(月))

(平成31年6月24日(月)~7月1日(月))

観覧料 展覧会によって異なります。

展覧会情報ページにてご確認ください。

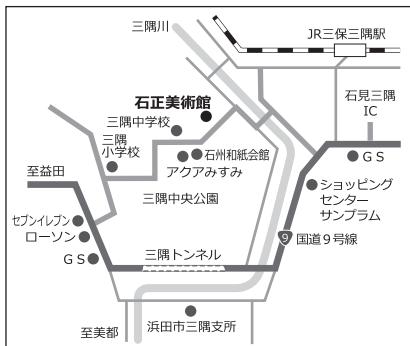
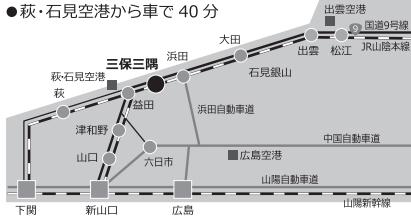
※20名以上は団体料金。

※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 秋・石見空港から車で40分



石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

No.139

Winter 2019

平成31(2019)年1月23日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589
TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館

「浜田市立石正美術館」で検索



報活動

光のモニュメントづくり
「光の回廊2018」



12月7日(金)、「光の回廊」の開催を前に、サポートの皆さんと光のモニュメント制作を行いました。今回は、当館のシンボルツリーである中庭のしだれ桜をメインにイルミネーションを設置する構想で、まずは降り積もった落ち葉をかき集める作業から始まりました。時折小雨がぱつつく中ではありましたが、わきあいあいと作業は進み、あついう間に中庭は見違えるほどきれいになりました。その後、冬に地中で力を蓄える桜の生命力を表現するために、根元から外側へ広がっていくようにイルミネーションを設置。また、美術館前の植え込みにもイルミネーションを取り付けて、あとは展覧会の開催を待つばかりとなりました。おかげで会期中の夜間開館では、まばゆい光が溢れるし、この季節だけの幻想的な光景を楽しんでいただけました。ご協力ありがとうございました!

洋画教室

～ドローイング・デッサン・油絵・アクリル画～

講師：野村 泰二（日本美術家連盟 会員）

指定受講日 9:30~16:00

油絵・アクリル絵具をそれぞれの画材の中心にして、それらの特質である画材としての多様性を活用し、自らの表現を大切に、描く楽しさを味わう教室です。ドローイング・デッサンからエスキース、支持体の作成からマチュエル研究、本制作へ展開します。



定員15名 受講料 15,000円 4月~12月（全9回）

※洋画教室のみ9カ月（4月~12月）の講座期間になります。

新
春
か
ら、
新
し
い。

石正美術館の

美術 講座

募集開始日

3月1日(金)

講座期間

前期 (平成31年4月~9月)

洋画教室のみ、平成31年4月~12月

※定員になり次第締め切ります。

島根学

講師：神 英雄（歴史地理研究者・安来市加納美術館館長）

第4土曜日 10:00~11:30



古代から現代までの島根の様々な事象を探りあげて、歴史・芸術から食の話まで、楽しくみながら学べます。

定員30名 受講料 6,000円

前期 4月~9月（全6回）

初めての日本画

講師：横山由美子（石正美術館学芸員）

第3日曜日 9:30~12:00

定員10名 受講料 5,000円

前期 4月~9月（全6回）



※「初めての日本画」は継続受講の方多数の場合、受講受付を行いません。
詳しくは石正美術館（0855-32-4388）までお問い合わせください。

申込方法

1. 「募集開始日」から当館にて受付を始めます。
2. 所定の「受講申込書」とともに受講料を一括前納してください。
3. 各講座とも定員になり次第締め切らせていただきます。
(定員未満であれば学期の中途受講も可能です)
4. 受講者証をお渡しします。